

「第3回アドバイザー会議」における評価区分及び評価内容

調書番号:12 事業名:研修・展示開催事業費

アドバイザー	評価区分	評価内容
諸平アドバイザー	「要改善」	<p>花きの生産額はほぼ横ばいとなっており、天候もあるので、研修会や展示会に参加することで生産性が上がっているか分からないのは理解できる。花き生産農家との情報交換を密にして、研修会や展示会の回数や内容の見直しを検討して頂きたい。</p>
小口アドバイザー	「要改善」	<p>業界への支援は基本的には業界が自立するまでの期間限定だと考える。また、支援内容について、県が直営でやるものと、それ以外の区分が必要。制度が出来て20年経過しており、組合が力不足とはいえ、69名で構成されている団体なので、自立して県が側面的な支援に移行する時期かと考える。</p> <p>支援の期限を決めること、県が主体で進める品種開発など県が直営で行うものと区分する必要がある。</p> <p>後継者による若手会が発足したことは、業界にとっても明るい材料だが、この支援についても早い時期に自立を促すことが、業界や後継者自身の発展に繋がると考えるので検討をお願いしたい。</p>
五味アドバイザー	「要改善」	<p>終期の設定が必要。</p> <p>新品種の開発や生産技術の普及は、総合農業技術センターから情報提供していると説明を受けた。総合農業技術センターからの情報提供を受けて、花き生産農家が自立して研修会や展示会を開催できるような組織化を指導するのが県の役割だと思う。現状のままだと、県の庇護のもとでしか成り立たない産業となってしまう。</p> <p>研究開発などの分野は県が主導するとしても、これを取り入れ活用する姿勢を、農家側に育成する必要がある。</p>